

第 3 保健事業の変遷

第 3 保健事業の変遷

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
昭和40年	・農夫症対策開始	・新生児全戸訪問 (国保対策)		・保健婦3人	63,365
41年	・そさいグループ健診 開始 ・老人クラブ保健指導 開始 ・高血圧料理講習会 開始 ・健康相談室開催				64,091
42年			・腸・パラチフス廃止 ・百日咳・ジフテリアに 破傷風が入り2種混 合から3種混合に変 わる		67,052
43年	・胃がん検診開始		・種痘切皮法から多圧 法に変わる ・BCG切皮法から管 針法に変わる	・看護婦1人	71,900
44年	・そさいグループ健診 終了 ・子宮がん検診開始		・ハイジェット使用開始 (61年まで)		75,962
45年	・農夫症対策終了	・赤ちゃん教室開始 ・乳児健診開始(1回)	・問診票使用開始 ・予防接種事故救済 制度始まる	・看護婦2人体制 ・保健婦4人体制	79,842
46年	・糖尿病料理講習会 開始	・乳児健診(2回) ・2歳児講習会開始	・日本脳炎1歳から3 歳、日本脳炎小2、 中1、55～64歳に 改正	・消毒室開設	85,006
47年					88,537
48年	・成人病健康診査開 始				92,697
49年		・1歳児健診開始	・ツベ・BCG 0～4 歳、小1、中1、中2に 改正 小2、中2は前年BC Gのみ		95,884
50年	・保健衛生推進協議 会設置	・乳児健診(4回)	・百日咳中止 ・種痘廃止		98,528
51年	・住民健診に血圧、検 尿を導入	・2歳児講習会終了	・2種混合3期入学前 廃止		99,566
52年		・1歳児健診終了 ・1歳6か月児健診 10回	・風しん開始(中学3 年女子)		100,236
53年	・小牧市民健康づくり 推進協議会設置	・1歳6か月児健診 24回	・風しん中学1・2年女 子に改正 ・日本脳炎55歳～ 64歳中止 ・予防接種事故調査 委員会発足	・保健婦国保から市 町村に移管 ・休日急病診療所 開設	100,837
54年	・住民健診ポスター作 成	・1歳6か月児健診 36回 ・事後検診開始 3回	・麻しん個別接種開始	・保健婦3人体制	102,160
55年	・保健健康づくりモデ ル地区活動開始 ・コミュニティースポ ーツ振興会における健 康づくり開始 ・糖尿病予防教室開 始	・1歳6か月児健診に 歯科健診を導入 ・なかよし教室(6回) ・幼児教室開始 (6回)	・百日咳復活(3種混 合) ・風しん中学1年女子 に改正 ・ポリオ投与法スプ ーンからピペットに改正	・救急医療情報シ ステムスタート ・保健婦4人体制	103,985

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
55年	・肥満教室開始 ・高血圧教室開始				
56年	・コンピュータードック開始 ・肥満教室、高血圧教室等シリーズ開始				106,630
57年	・保健衛生推進協議会廃止 ・乳がん自己検診法開始	・妊婦貧血教室開始(2回)	・一般会場一針一筒となる		108,885
58年	・健康手帳交付開始 ・北里支所健康相談中止 ・一般健診開始 ・小牧市健康まつり開始	・妊婦貧血教室(3回)		・保健婦3人体制	110,281
59年	・成人病教室の充実 ・コンピュータードック終了 ・大腸がん検診開始 ・子宮がん施設検診開始 ・保健連絡員養成講座開始	・妊婦貧血教室(4回) ・小冊子の作成 ・なかよし教室(12回)	・予防接種事故調査委員会廃止		112,097
60年	・肺がん検診開始 ・保健連絡員活動開始 ・一般健診ポスター作成開始	・妊婦貧血教室を妊婦栄養教室に改正(5回)			113,670
61年	・一般健診対象者へ個人通知 ・乳がん検診開始	・妊婦栄養教室(6回) 人形劇開始、尿中塩分量測定、みそ汁塩分測定 ・2語文アンケート		・保健婦4人体制	115,211
62年	・肺がんX線開始		・ハイジェット使用全面廃止 ・麻しん無料化 ・インフルエンザ任意、保護者同意となる	・保健婦1人増員 保健婦5人 看護婦2人	117,198
63年	・基本健診の開始 ・リハビリ教室開始 ・人間ドックの開始	・1歳6か月児健診に精密検査を導入 ・2語文アンケートを2歳児アンケートに改正	・予防接種電算調査	・保健センター開設 ・栄養士1人配置 ・看護婦1人増員(職員13人)	119,935
平成元年		・妊婦栄養教室を妊婦教室に変更 歯の健診を導入(12回) ・1歳6か月児健診に心理相談を導入	・MMR開始	・看護婦3人体制 ・補佐職配置 ・保健指導係長兼務(職員14人)	122,913
2年	・訪問生活リハビリ開始 ・40歳無料大腸がん検診開始 ・食生活相談紹介状の導入により医師会との食事指導の連携ができる ・「生きがいの会」発足		・予防接種協議会の設置	・保健婦1人増員 ・保健婦6人体制(職員15人)	125,261
3年	・乳がん検診にDMRを導入 基本健診に尿酸、総蛋白を加える		・MMR凍結		129,267

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
4年	・成人歯科健診 ・がん死亡撲滅地区事業開始 モデル地区 ＝岩崎原区、市之久田区 ・歯科衛生士による訪問指導開始				131,024
5年	・成人健康管理システム稼働 基本健診に HDL・中性脂肪・クレアチニン追加 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝三ツ瀨区、野口区 ・成人歯科健診を3回から6回に拡大 ・ボランティア健康劇団「ほたる」発足 ・地域ケアボランティア「ともしび」発足			・補佐職兼務を解く ・歯科衛生士1人配置 ・看護婦1人退職（職員数16人） 保健婦6人 看護婦2人 栄養士1人 歯科衛生士1人	133,723
6年	・人間ドック300人増加（総数 1,800 人） ・人間ドック受診料 5,660 円→6,000 円 ・人間ドック検便を2日法に変更 ・骨粗しょう症検診健康教育 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧原区、北外山県住区 ・ボランティア「つつじ」（1人ぐらし老人食生活の工夫）発足 ・小牧市老人保健福祉計画作成	・乳幼児管理システム稼働 ・母子保健法一部改正	・インフルエンザ取りやめる ・予防接種法一部改正により、予診医師1人1時間あたり100名→20名	・保健婦1人増員 保健婦7人体制（職員数17人）	135,632
7年	・人間ドック300人増加（総数 2,100 人） ・骨粗しょう症予防教室 ・地域リハビリの集い「たんぼの会」開始（南岩崎台） ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄区、藤島団地区 ・保健連絡員活動10周年記念事業 ・健康まつりで骨粗しょう症検診（国保会計）		・風しん個別接種予防接種法一部改正により、名称及び対象年齢の変更 個別接種化に伴い、会場数を変更 10→6会場	・保健婦1人増員 保健婦8人体制（職員数18人）	137,226
8年	・骨粗しょう症検診（新規） 年6回130人×6回＝780人 ・基本健診 HbA1cの項目追加（ヘモグロビンA1c） ・地域リハビリ「ももの	・9年移譲にむけて、保健センターを会場として4か月児健診の実施（実施主体保健所） ・乳幼児管理システム第2次開発 ・母子保健計画の作	・日本脳炎個別接種個別接種化に伴い、会場数を変更 6→5会場	・保健婦2人増員 看護婦1人増員 保健婦10人 看護婦3人 栄養士1人 歯科衛生士1人退職（職員数21人）	138,795

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
8年	- 会」開始(東部) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 村中区、大草西・東区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 北里中学校区 応時中学校区 ・リフレッシュウォーク 四季の森～四季の道 (389人参加) ・ボランティア「つつじ」が料理する一人ぐらし簡単料理を広報こまきに掲載開始	成			
9年	・骨粗しょう症検診 年6回150人×6回 = 900人 ・人間ドック300人増加 (総数 2,400人) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 桜井区、大輪区 ・地域リハビリ「わかばの会」開始(藤島団地) ・いきいきウォーキング推進事業 = 光ヶ丘中学校区 味岡中学校区 ・ボランティア「つつじ」が愛知県健康づくり振興事業団の助成により1人ぐらし簡単料理広報掲載の効果判定	・県より事務移譲 1 妊婦及び乳幼児健診事業 2 4か月児・3歳児健診事業 3 乳幼児歯科健診 予防処置事業 4 食生活改善推進員養成・育成事業 5 妊婦及び乳児健診受診券交付 ・母子保健推進協議会設置 ・2歳3か月児歯科健診開始	・2種・3種混合個別接種 ツベルクリン・BCGを4か月児健診にあわせて実施	・H9年4月1日から統廃合により小牧保健所が春日井保健所小牧支所となる ・健康まつりにポルトガル語、スペイン語の通訳、手話通訳を配置 ・保健婦2人増員 事務員1人増員 保健婦2人退職 保健婦12人体制 歯科衛生士1人配置 (職員数24人)	140,819
10年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 間々区、岩崎区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 篠岡・桃陵中学校区、岩崎中学校区 ・食生活改善推進員養成講座開始 ・小牧市食生活推進協議会設立	・離乳食教室導入(年6回) ・母乳相談の導入(月4回) ・妊婦教室をパパママ教室に変更 ・こども事故予防コーナーの設置	・市外中学校通学者対象の接種を夏休みにあわせ実施 ・ポリオ投与回数変更 年2回→3回	・4か月児・1歳6か月児・3歳児健診にポルトガル語、スペイン語の通訳配置 ・保健婦2人増員 ・保健婦1人10月より介護保険課へ保健婦1人退職 看護婦1人退職 事務職1人退職 保健婦14人体制 10月より13人体制 (職員数26人)	141,911
11年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 池之内区、小木区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 小牧中学校区 小牧西中学校区 ・水中ウォーキング教室温水プール (延233人参加)	・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問導入(100件) ・育児専用電話「こまねっと」設置 ・育児相談を市内6か所の児童館で開設 ・園児と親を対象に親子歯みがき教室開設 ・小牧市独自の母子手帳の作成・交付 (6月)		・保健指導係が母子保健係と成人保健係に分かれる 保健婦1人退職 保健婦1人減員 事務職1人減員 保健婦13人体制 (職員数24人) ・保健センター改築 (1階事務所改築により、消毒室を3階へ、玄関前スロ	143,050

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
11 年				ープ及び障害者用トイレを改築)	
12年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧区、米野区 ・人間ドック200人増加 (総数 2,600 人) ・人間ドック受診料 6,000 円→7,050 円 ・人間ドックの名称を「すこやかドック」、基本健診を「さわやか健診」と変更 ・地域リハビリ「こめこめ12」開始(小牧南) ・寝たきり予防講座 (参加401人) ・地区巡回介護講座 (8回193人参加) ・健康ウォーキングマップこまき「いい汗かいていいもの発見」 (1,500 部発行)	・4か月児健診に合わせた母親歯科健診導入 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (100件→150件) ・2歳3か月児育児相談(7月) ・育児支援を中心にした乳幼児健診体制を実施 ・日曜パパママ教室開始(年3回)	・個別接種化に伴い、会場数を変更 5→4会場	・2歳3か月児歯科健診 ポルトガル語、スペイン語の通訳配置 (職員数24人)	144,382
13年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝舟津区、久保一色区 ・人間ドック100人増加 (総数 2,700 人)	・母子健康手帳交付時相談を開始 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (150件→200件) ・にこにこむし歯予防教室(6回) ・親子で楽しむ料理教室、保健連絡員、母子に対する取組み開始 ・4か月児健診1日目に保育ボランティア「バオバブの木」参加 ・保健連絡員「親子料理研究会」発足	・65歳以上を対象としたインフルエンザ予防接種が始まる	・パソコンによる保健総合システムを導入 (職員数24人)	146,225
14 年	・人間ドック150人増加 (総数 2,850 人) ・すこやかドック・さわやか健診に併せて肝炎検診 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝池之内・林・大山野口区、下小針区	・保健連絡員とOBによる赤ちゃんの全戸訪問開始(10月) ・一般公募による保育ボランティア活動開始 ・第2次母子保健計画作成(11月から推進) ・市内モデル校によるフッ化物洗口開始(小牧原小学校・北里小学校)		・保健師1人退職 (職員数23人)	147,055
15年	・人間ドック550人増加 (総数 3,400 人) ・人間ドック受診料 7,050 円→9,000 円 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝北外山県住区、小牧原区	・母子健康手帳を親子健康手帳として交付 ・外国人向け母子健康手帳の交付 ・パパママ教室3回コースの2・3回目を日曜日開催 ・4か月児健診(2日目)に図書館主催に	・小・中学校でのツベルクリン・BCG接種の中止 ・H15年9月風しん予防接種経過措置終了	・保健師3名3月退職 (職員数23人)	148,387

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
15年	・地域リハビリ「健康の集い」(野口第5)「ピーチの会」(桃ヶ丘)開始 ・転ばぬ先の転倒予防教室開始 ・家族の健康を考える食生活講座開始 ・介護者を支える会「ささの会」発足	・よるブックススタート事業が8月より開始			
16年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝入鹿出新田区、南岩崎台区 ・保健師市民健康相談 9時～16時→9時～12時 ・脳いきいき教室開始 ・生活習慣病予防教室「運動はじめて体験教室」 参加者106人 ・健康こまきいきいきプラン作成 ・ウォーキングマップ改訂	・パパママ教室を3回コースから1回に変更 ・日曜パパママ教室を年3回開催 ・運動発達相談開始 ・おひさま教室開始 ・生と性に関するカリキュラム「親・地域版」完成		・休日急病診療所移転 ・診療科目に外科・歯科を増設 ・事務職1人12月退職 ・事務職1人3月退職 (職員数22人)	149,208
17年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝上末・下末・高根区、多気上・多気下区 ・住民健康診断が9日間から2日間へ ・胸部レントゲン撮影が65歳以上の方が対象となる(結核検診) ・人間ドック400人増加 (総数 3,800 人) ・さわやか健診オプションとして胸部 X 線検診開始 ・さわやか健診・すこやかドックのオプションとして前立腺がん検診開始(対象50歳以上) ・体しなやか膝腰スッキリ教室開始 ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプラン」策定 ・保健連絡員活動20周年記念事業 ・05健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事の合同展としてパークアリーナにて開催)	・前期離乳食教室・ごっくん教室開始 ・育児相談月4回から月2回へ ・4か月児健診を2日コース→1日コースへ変更 ・4か月児健診未受診児への対応を個人通知から電話・訪問へ変更	・ツベルクリン反応検査の中止 ・ダイレクトにBCG接種対象が生後6か月未満に変更 ・H17年5月30日より日本脳炎の接種勧奨の見合わせ ・H17年7月29日より日本脳炎第3期廃止 幼児期2種混合が定期外となる ・麻しん予防接種と風しん予防接種の単独ワクチンが3月末日で終了となる為接種勧奨	・栄養士1人3月退職 (職員数24人)	150,569

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
18年	・H18年度より、がん死亡撲滅モデル地区は小学校区で実施＝小牧南小学校 小牧小学校 ・住民健康診断2日間実施 ・乳がん、子宮がん検診受診が2年に1回に変更 ・介護保険・地域支援事業(介護予防事業)担当 ・06健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事合同展) ・傾聴ボランティア「そよかぜ」発足 ・「牧連体操クラブ」発足	・生と性に関するカリキュラム「小学校・中学校版」完成 ・親子健康手帳改正(生と性に関する項目、特に自己肯定感の大切さを意識して加筆) ・マタニティキーホルダー配布(1月) ・第2次母子保健計画中間見直し	・麻疹風しん混合予防接種開始対象が第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校入学前の1年間(年長児)に変更 ・児童の集団接種が中止となり個別接種へ変更(2種混合、日本脳炎)	・事務職1人3月退職(職員数23人)	151,288
19年	・がん死亡撲滅モデル地区＝三ツ淵小学校 一色小学校 ・保健連絡員設置要綱改正(対象が「市内在住の主婦の方」から「20歳以上の市内在住の方」へ変更) ・「血液さらさら」をモデル地区及び6地区で実施 ・おくち元気はつらつ教室開始 ・メンタルヘルスセミナー「山口律子講演会」H20年2月29日(202名)	・自分を大切にすることが出来る「自己肯定感獲得DVD-みんなちがってみんないい」を制作し、H20年1月より、乳幼児健診や希望者に配布、あわせて健康教育を行う ・発達障害をもつ親子を支援する「成長記録」の試作 ・不妊検査及び治療費助成開始 ・妊婦健康診査公費負担 2回→5回 ・8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室開始	・結核予防法から感染症予防法に改正される	・栄養士1人増員 看護師1人減員 事務職1人増員 事務職1人3月退職(職員数24人)	152,445
20年	・がん死亡撲滅モデル地区＝大城小学校 小木小学校 ・ヤング健診の開始 ・地域リハビリ「西コミふれあいの会」開始(西部地区) ・老人保健法から健康増進法に改正される ・さわやか健診・すこやかドック廃止 健康診査(生活保護受給者)開始 ・がん個別健診開始 ・肝炎ウイルス検診の対象者を節目検診から40歳の方に変更 ・ウォーキングマップの改訂 ・低栄養予防に関するリーフレット配布開始	・妊婦健診公費負担 5回→14回(H21.1.27以降) ・外国人ボランティアによる赤ちゃん訪問を試験的に開始 ・生と性に関するカリキュラム小学生中学生版を全校で開始 ・安心相談カードを中学2年生全員に配布 ・市立中学2年生全員に「生と性に関するアンケート」を実施 ・市内保育園における年長児を対象としたフッ化物洗口事業を開始	・麻疹風しん混合予防接種 第3期・第4期が5年間の経過措置で開始対象 第3期: 中学1年生に相当する年齢の間の1年間 第4期: 高校3年生に相当する年齢の間の1年間	・事務職1人減員(職員数23人)	153,495

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
21年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝米野小学校 小牧原小学校 ・地域リハビリ「なんなん21」開始(南部地区) ・女性特有のがん検診推進事業開始 対象: 子宮がん (20、25、30、35、40歳) 乳がん (40、45、50、55、60歳) 一定の年齢に達した女性に無料クーポン券と検診手帳配布 ・歯周病予防個別健診開始 (対象:35歳) ・健康日本21こまき計画「健康 こまき いきいきプラン」中間見直し ・健康福祉フェスティバル in こまき4催事→3催事(健康まつり、福祉展、介護展) 会場:パークアリーナから市民会館、公民館に変更	・4か月児健診と1歳6か月児健診にて子育て支援センターと連携 ・市立中学2年生とその保護者に「生と性に関するアンケート」を実施し、思春期の諸問題に対する方策を検討 ・親子健康手帳改正(朝食の大切さに関する内容を充実)	・肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成開始 対象:75歳以上 ・新型インフルエンザワクチンの接種開始 ・新型インフルエンザワクチン接種に係る費用軽減事業開始	・(職員数23人)	153,581
22年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝村中小学校 味岡小学校 ・向井亜紀がん講演会 H23年1月9日(568名) ・地域自殺対象緊急強化事業「水谷修講演会」 H23年3月19日(783名) ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプランコーナー」として小牧産業フェスタに参加	・市ホームページと携帯サイトに「思春期によくある質問 Q&A」と「小学生と中学生のための相談窓口」を掲載 ・妊婦健診公費負担内容(子宮がん検診、初回血液検査等)の充実 ・妊婦健診受診票に妊婦(成人)歯科健診受診票を挿入	・日本脳炎予防接種3歳になる子に接種勧奨開始 (H22.4.1～) ・インフルエンザ3価ワクチン接種(H22年10月1日～H23年3月31日) ・任意予防接種無料接種開始 (H23.1.1～) 子宮頸がん予防ワクチン ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,371
23年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝光ヶ丘小学校 北里小学校 ・地域リハビリ終了 こめこめ12(米野小)健康の集い(野口第5) ・働く世代への大腸がん検診推進事業(集団)開始 対象:40、45、50、55、60歳の男女	・妊婦健診公費負担内容(成人T細胞白血病ウイルス検査、性器クラミジア検査)を追加 ・子育て支援機関連携会議を開催(ハローファミリーカードの導入) ・妊娠届出時アンケートの充実 ・小学1・2年生を対象に「いのちの学習」を実施(15校) ・市ホームページと携帯	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン一時見合わせ (H23年3月5日～H23年3月31日) ・水痘(水ぼうそう)ワクチン予防接種、おたふくかぜワクチン予防接種費用助成開始 (H23.10.1～) ・日本脳炎特例措置開始 (H23.5.20～) (H7.6.1～H19.4.1生まれの者が20	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,507

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
23年	・健康日本21こまき計画関連事業 ・「いきいきおせっ会」発足 ・いきいき世代個別歯科健診事業開始 対象：40、50、60、70歳	サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q & A」の内容を充実	歳になるまで)		
24年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄小学校 篠岡小学校 ・働く世代への大腸がん検診推進事業（個別）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・ウォーキングマップの改訂 ・知立市健康推進員視察と健康連絡員との交流会 ・第30回健康まつり（フェスティバル）をもって終了 各地区健康展で開催 ・職域対象歯周疾患対策普及啓発事業開始（商工会議所連携事業）	・妊娠期からの育児支援を目的に愛知県統一様式の妊娠届出書を採用 それに伴い、市独自の妊娠届出時アンケートを変更 ・平日パパママ教室（栄養・歯について）、日曜パパママ教室（育児について）で開催された内容を見直し、パパママ教室（育児・栄養・歯について）として、平日や日曜日に開催 ・親子で楽しむ料理を考える会活動終了 ・市立中学2年生に「生と性に関するアンケート」を毎年実施してきたが、今後5年毎の実施とする予定（H29年度実施予定） ・市ホームページと連携サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q & A」に「いじめ」についての内容を追加	・生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ（H24.9.1～） ・4種混合ワクチン開始（H24.11.1～） ・尾張北部医療圏広域予防接種開始（H24.6.1～）	・所長補佐職成人係長兼務 保健師1人増員（職員数23人）	153,344
25年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、桃ヶ丘小学校 ・地域リハビリ終了ピーチの会（桃ヶ丘地域） ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」最終評価 ・「こころの相談窓口」パンフレット改訂 ・乳がん（超音波）検診の開始 対象：30～39歳 ・介護予防事業一次予防事業「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」「サヨナラ膝腰痛教室」「男性のための膝腰痛予防プログラム」開始 ・地域主体の健康まつり（展）の拡充 ・「糖尿病連携手帳」を活用した歯周病予	・低体重児の届出及び未熟児訪問が愛知県から権限移譲 ・健診の事後教室として、親子のかかわりを学ぶ「あそびの教室」を開始 ・小学2年生とその保護者を対象に「いのちの学習」を実施（16校） ・中学3年生に対し「素敵な大人になろう～性感染症の予防～」を実施（7校） ・園児対象う蝕対策普及啓発事業開始（学官連携事業） ・学童期歯科疾患対策モデル事業開始 ・楽育相談をH26年3月より、試験的に実施し、2名参加	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチン定期接種化（H25.4.1～） ・BCG接種対象者生後1年に至るまでに変更（標準：生後5～8か月）（H25.4.1～） ・子宮頸がん予防ワクチンH25.6.14より積極的な勧奨の差し控え ・風しんワクチン予防接種費用助成事業開始（H25.7.1～） 日本脳炎特例措置生年月日の拡大（H7.6.1生→H7.4.2生）	・保健師1人増員 事務職1人減員	153,170

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
25年	防事業開始				
26年	・女性特有のがん検診推進事業(乳・子宮がん検診) ①<乳・子宮がんコールリコール> ・H26年度検診申込者で、H21～H24年度に無料クーポンを配布し、年度内の未使用者に対し本人の申し出により、再度無料クーポンを配布 ②<無料クーポン券の配布年齢を変更> ・乳がん検診：40歳のみ ・子宮がん検診：20歳のみ ・胃がん・大腸がん検診対象年齢を40歳以上から30歳以上に拡大 ・人間ドック事業を開始 - 対象：40歳以上の国民健康保険被保険者、後期高齢者医療被保険者、協会けんぽ被扶養者の方限定(年度内に40歳を迎える方も対象) ・がん検診自己負担額見直し 70歳以上0円→500円/各検診 69歳以下軽減 ・非課税世帯者に対し、「がん検診・人間ドック費用免除券」を保健センター窓口にて発行 ・がん死亡撲滅モデル地区 = 小牧地区 - 陶小学校区 ・保健連絡員OB「つつじ会」(一人暮らし高齢者の食生活の研究と工夫)活動終了 ・壮年期対象の機能訓練教室終了 ・第2次健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定	・乳児健診受診票の金額変更 (1回目・2回目 5,350円から、1回目 5,180円、2回目 5,990円へ) ・乳幼児健診(集団)の問診票を保護者が外国人の場合、あらかじめ母国語の問診票を郵送 ・にこにこむし歯予防教室をH25年度より、にこにこむし歯予防相談とし、児童館にて実施 ・安心相談カードを教育委員会の相談カードと一体化、市内中学1年生と高校1年生に配布 ・学校保健課題解決事業において小牧市生と性のカリキュラムの公開授業研究に取り組む	・水痘ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26年度のみ)生後36月～60月に至るまでの間の児を対象 ・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成の対象者変更 75歳以上→70歳以上 ・成人用肺炎球菌ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26～30年度) - 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・H26年度は、H25年度末に100歳以上の者 ・愛知県広域予防接種開始 (H26.4.1～) (A類疾病のみ) ・日本脳炎(第2期) - 高校3年生に相当する学年の方で未接種に対し個別通知開始		153,303
27年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 巾下地区、味岡地区 ・こまき健康マイレージ事業開始 ・保健連絡員活動30周年記念事業	・H27年8月中旬より自己肯定感獲得動画を市のホームページでネット配信 ・DVDは乳幼児健診等で希望者に配布 ・高校にてモデル事業として生と性のカリキ	・日本脳炎(第1期)未接種(H13.4.2生～H19.4.1生)に対し個別通知 ・2種混合(第2期)発送時期変更 12歳誕生日→11歳の誕生日の翌月		153,680

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
27年	・新たなステージに入っ たがん検診の総合支 援事業 (乳・子宮がん検診) 《乳・子宮がんコー ルリコール》 H25年度に無料ク ーポンを配布した方 で年度内に未使用 かつ過去5年間(H 22～H26年度)に 一度も保健センター の検診を受けたこと がない方に、無料ク ーポン券を個別通知	・ユラムを推進 ・「健康寿命をのぼそ うアワード」母子保健 分野(自治体部門) において優良賞受賞 「母子保健推進協議 会から発信する親子 の自己肯定感の醸 成＝『心豊かにいき いきと生きる力』を持 つ子どもの成長につ なげていくために＝」 ・H28.3.7より、市ホ ームページ上に「お子 さんの発育や発達に 不安を感じたら…」を 掲載 その中で自閉症スペ クトラム評価尺度「エ ムチャット」について、 活用したい人が活用 できるよう、情報提供 (外部リンク)を開始	・尾張北部医療圏の 広域接種(B類) H28.3.31で終了 ・インフルエンザワクチ ン3価→4価に 自己負担1,000円 →1,200円に変更		
28年	・こまき健康マイレージ 事業からこまき健康 いきいきポイントへ名 称変更 ・ウォーキングアプリ 「alko」を10月から 配信 ・がん死亡撲滅モデル 地区 ＝東部地区、北里 地区 ・介護予防事業一次 予防事業「男性のた めの膝腰痛予防プロ グラム」終了 ・胃がん(内視鏡検 査)検診を50歳以 上の方に対し2年に1 回、和暦の偶数・奇 数で区別し、偶数生 まれの方から検診を 開始 ・新たなステージに入っ たがん検診の総合支 援事業 《乳・子宮がんコー ルリコール》 H26年度に無料ク ーポンを配布した方 で年度内に未使用 かつ過去5年間(H 23～H27年度)に 一度も保健センター の検診を受けたこと がない方に、無料ク ーポン券を個別通知 ・人間ドック受診期間 を6月～翌年2月1 4日まで延長 ・こまきヘルシーメニ ュー事業をH29年2 月から開始	・市内の高校(3校) にて、生と性のカリキ ュラムを推進 ・赤ちゃん訪問におい て、外国人家庭へ積 極的に訪問実施 ・親子健康手帳の表 紙デザインを従来の 卵のデザインから市ブ ランドロゴマークをア レンジしたデザインへ 変更 それに伴い、卵や鳥を たとえにした文章表現 を変更 ・第1回母子手帳フォー ラム(東京)に参加 し、「親子健康手帳 における小牧市の思 い」を報告 ・愛知県公衆衛生研 究会にて、「1歳6か 月児健診後の言語 発達における伸びを 予測する因子－遊び の場を活用した健診 にて－」について研究 発表	・愛知県の広域予防 接種B類疾病開始 (H28.4.1～) ・3種混合ワクチン販 売中止 最終有効期限H28. 7.15で終了 ・B型肝炎定期接種 化(H28.10.1～) ・日本脳炎第2期 H19.4.2生～の勧 奨再開	・初動時における災 害時保健活動実 践マニュアル(保 健班活動マニユ アル)の作成	153,526

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
28 年	・ 5 大がん検診の要精検者に再通知を開始				
29 年	・ こまき健康いきいきポイント事業のポイント有効期限を2カ年に変更 ・ 壮年期保健事業出前講座に「正しいラジオ体操教室」を追加 ・ 介護予防事業一次予防事業に「いきいき元気塾」運動編を味岡市民センターでも実施 ・ 「カラダによく効くラジオ体操講習会」を追加 ・ 乳がん(マンモグラフィ)個別検診開始 ・ がん撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区	・ 親子健康手帳について、愛知県医師会から愛知県保健医療局長あてに、母子健康手帳の県内統一に関する要望書が提出されたことを受けて、母子保健推進協議会で協議した結果、①B6サイズへの変更、②省令様式の遵守、③予防接種記録等に関するページの振り分けについて、H29年度印刷分の親子健康手帳について変更 ・ 国から、乳児ボツリヌス症の予防対策について、任意記載事項様式「乳幼児期の栄養」についての掲載を前提とした上での再周知の通知を受けて、小牧市独自の内容から任意記載事項様式に変更 ・ 不育治療等助成事業の開始 従来的一般不妊治療等助成事業に加え、不育治療等助成事業を開始 不育症についての検査及び治療を受けられたご夫婦に対し、保険適用外の医療費を助成 ・ 妊婦個別歯科健診の実施 ・ 妊産婦、新生児、乳児訪問の予算を380件から530件へ増加 ・ 小牧高等学校(全日制)において、生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版の推進＝について、今後、市内の全高等学校を対象としたカリキュラムの推進を目的として、市内の全高等学校と共に公開授業研究を実施 ・ 第2回母子手帳フォーラムを小牧市で開催(H29年7月1日) (国際母子手帳委員会主催、小牧市後援) ・ 小牧市立中学2年	・ 特別な理由による定期予防接種の再接種費用の助成開始	・ 初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の改正 (妊産婦、乳幼児のいる家庭の平常時の備えについて啓発を追加) ・ 新型インフルエンザ特定接種について市民病院と協定を結ぶ	153,335

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
29年		生を対象に生と性に関するアンケートを実施			
30年	・青年期出前講座に「女性ホルモンとカラダのトリセツ講座」を追加 ・健康日本21重点施策の取り組みとして、「市民健康講座」を開催 ・小牧市自殺対策計画策定 ・骨粗しょう症検診受診料見直し ・老人福祉センターで実施している老人健康相談を48回から24回へ変更 ・10月～「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」を第1老人福祉センターで実施 ・フレイル予防のための教室「～笑いの泉～わっはっは講座」を老人福祉センターにて実施 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 巾下地区、味噌地区 ・乳がん(マンモグラフィ)検診 ①受診者への「乳房の構成」通知開始 ②無料クーポン未受診者に再通知を実施 ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定検診と市の胃・大腸がん検診の同日開催	・それぞれに事例検討会や研修会が開催されているため、知恵の輪会を終了 ・H30年4月1日出産以降の産婦及び新生児を対象に、産婦健診2回/人(5,000円/回)、新生児聴覚検査1回/人(5,000円/回)の受診票を交付 ・9月～子育て世代包括支援センターにて、産後ケア事業実施 ・子育て応援アプリ「すくすくこまキッズ」配信開始 ・妊娠期サポートプランを作成・配布 ・12月～子育て世代包括支援センターにて、「利用者支援事業会議」を月1回開催	・成人用肺炎球菌ワクチン助成事業終了に伴い未接種者に対し接種勧奨を個別に通知	・助産師1名増員 ・9月子育て世代包括支援センター開設 (母子保健係長、保健師1名、助産師1名異動) ・所長補佐職、母子保健係長兼務 ・9月、子育て世代包括支援センター開設(ラピオビル内)母子保健型利用者支援事業の実施に伴い、親子健康手帳の交付、妊婦・産婦・乳児個別健診事業、妊婦個別歯科健診事業、低体重児の届出、妊産婦、新生児、乳児訪問、育児相談(市内児童館巡回育児相談、母乳相談含)を保健センター母子保健係より子育て世代包括支援センターへ移管	152,944
令和元年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者拡充(5歳刻みにし、75歳を追加) ・ウォーキングアプリalkoが8月に秘書政策課から移管され3月まで所管 ・乳がん、子宮がん検診無料クーポンの未受診者の再通知を開始 ・第2次健康こまきいききプランの中間評価及び後期計画の策定 ・ウォーキングマップ改訂 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 東部地区、北里	・歯っぴー子育て講座を開始 ・事後検診終了 ・股関節脱臼チェックリストを4か月児健診及び産婦、新生児、乳児訪問で導入 ・子育て世代包括支援センターにて「アンバーサリー事業」を開始 ・1歳サポートプランを作成・配布	・4月1日からロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を開始(市独自) ・成人用肺炎球菌ワクチンの経過措置の延長：R元年～5年度(国の施策) 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・大人の男性風しん対策事業(国の施策)対象者に抗体検査及び接種の無料クーポンを送付	・所長補佐職成人保健係長兼務 ・4月1日から骨髄提供者等助成事業を開始 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成人保健事業及び母子保健事業の一部事業を中止(3月) ・愛知県災害時保健活動体制整備強化事業により「災害時地域まるわかりシート」を春日井保健所と共に作成 ・統括保健師の開始	152,816

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
令和元年	地区				
2年	・小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の公布 ・成人歯科健診終了 ・健康ポイント事業(ウォーキングアプリalko含む)小牧市健康づくり推進協議会を健康生きがい推進課へ事務移管する	・妊娠期支援プランを作成・配布 ・多胎妊婦向けサポートプラン作成・配布 ・4か月児、1歳6か月児、3歳児健診でサポートプランを作成・配布 ・歯っぴー子育て講座終了 ・8月～子育て世代包括支援センターにて「オンライン育児相談」を開始	・ロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を終了 ・ロタウイルスワクチン定期接種化(R2.10.1～)	・4月1日健康生きがい推進課が本庁に新設 ・健康生きがい推進課に保健師1名配置 ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため一部事業を中止(4月・5月) ・1月18日新型コロナウイルスワクチン接種推進室が本庁舎に新設・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に、看護師1名配置 ・所長、所長補佐、予防検診係に兼務発令	152,842
3年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充(40歳から75歳の5歳刻みにし、80歳を追加) ・歯周病予防個別健診の対象者の拡充(20歳、25歳、30歳を追加し、20歳から35歳の5歳刻みで実施) ・まちかど運動教室開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を東部地区限定で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、小牧地区	・7月～3歳児健診の視力検査でスポットビジョンスクリーナーを導入 ・多胎妊婦に妊婦健診受診票を5回分追加交付 ・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞受賞 ・「子育て世代包括支援センターと児童館が連携した切れ目ない支援体制づくり～1st アニバーサリー事業をとおして～」 ・9月～流産・死産の相談窓口開設(子育て世代包括支援センター内)	・BCGの集団接種をR3年度末で終了 ・R元年度送付の大人の男性の風しん対策事業(国の施策)対象者のうち、未受診者等に抗体検査及び接種の無料クーポンを再送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の開始:接種の期間、R4年2月28日まで以降、接種期間、対象年齢が順次拡大12歳以上、初回接種、第1期追加接種実施 ・小児(5～11歳)初回接種実施	・子育て世代包括支援センターに保健師1名、保健センターに保健師3名増員	151,920
4年	・働く世代への大腸がん検診推進事業の対象を40歳のみに変更 ・まちかど運動教室を「健康づくり編」「フレイル予防編」に分けて実施開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を全域で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝巾下地区、味岡地区 ・口腔がん検診実施(歯科医師会補助事業、2回/年)	・中学2年生を対象にピロリ菌検査事業を開始(市独自事業・市内中学校にて配布・回収) ・こまき妊娠SOSの開設(子育て世代包括支援センター内) ・産後ケア事業のメニュー(アウトリーチ)追加 ・産後ケア事業で償還払いを実施 ・こまき祖父母手帳を作成・配布 ・6月～こまき巡回バス「こまくる」のマタニティフリーパスを配布 ・R5年2月～小牧市すくすく子育て応援事業/小牧市出産・	・HPV(子宮頸がん予防)ワクチンの接種勧奨の再開 ・R4年4月～R7年3月の3年間、H25年度からR3年度の間、HPVワクチン定期接種の対象であった方へのキャッチアップ接種を開始 ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助金の開始(～R6年度末まで) ・小牧市内の医療機関でBCGの個別接種を開始 ・大人の男性の風しん対策事業(国の施策)がR6年度末まで延長対象者に抗体検査及	・7月1日よりがん患者医療用補整具(ウィッグ・乳房補整具等)購入費助成事業を開始:実施要領施行は4月1日～ ・小牧市役所が健康経営優良法人2023に認定 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に保健師1名配置 ・新型コロナウイルスワクチン接種会場として保健センターで小児接種を実施 ・保健センターに保健師2名、介護保	150,684

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
4 年		- 子育て応援ギフト支給事業（国の出産子育て応援給付金）並びに伴走型相談支援を開始 - 市民活動団体「摂食障害よりみち」との協働事業で摂食障害予防啓発協働事業を実施 - 保健センターでのパママ教室を子育て世代包括支援センターの「あつまれ!!たまごファミリー」に統合し、子育て世代包括支援センターで実施	- び接種の無料クーポンを送付 - 新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施：12歳以上、第2期追加接種、R4年秋開始接種の実施 - 小児（5～11歳）追加接種実施 - 乳幼児（6か月～4歳）初回接種実施	除課に1名増員	
5年	- 小牧市健康づくり推進プラン策定（第3次計画） - がん死亡撲滅モデル地区＝東部地区、北里地区 - 知って得するフレイル予防講座を「知って得する若返り講座」「アクティブシニア応援セミナー」「健康づくり応援隊★認定講座」に変更 - 口腔がん検診拡充（歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年3回実施） - 協会けんぽ被扶養者向け集団特定健診と市の胃・大腸がん検診、子宮・乳がん検診の同日開催	- 親子健康手帳について任意様式を18歳まで拡大し内容を改訂 - 幼年期・学童期（中学年）性教育を中央図書館で夏休みに実施 5月から伴走型支援として妊娠8か月時アンケートを開始 7月から低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成を開始 - 乳幼児身体発育調査を実施	4種混合ワクチンの定期接種対象月齢が生後3月から2月へ変更 - HPVワクチン定期接種の対象ワクチンに9価ワクチンが追加 50歳以上の小牧市民に対し带状疱疹ワクチンの予防接種費用助成開始 - 新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種を年度末で終了	6月1日より若年がん患者在宅療養助成事業を開始：実施要領施行は4月1日～ - 骨髄提供者等助成事業を拡充 - 市の独自の助成金として20万円の助成拡充 - 歯科衛生士を1名増員 - 精神保健福祉士1名配置 - 子育て世代包括支援センター、保健センター、健康生きがい推進課に保健師を各1名増員 - 乳幼児健診にベトナム語通訳を配置 - 医療救護所に関する医師会との協定内容を変更 1月に災害時看護職ボランティア登録制度を制定	150,188
6年	- 集団乳がん・子宮がん検診に託児付きの日を設定開始（半日2回） - いきいき世代個別歯科健診の健診項目を拡充し、オーラルフレイルに係る項目を追加して実施 - 口腔がん検診拡充（歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年4回実施） - がん対策（がん検診・助成金・がん患者支援センター）チラシを作成 - 保健連絡員や民生委員へ向けてがん教育（情報発信）を実施	- 中学生等に向けたがん教育の出前講座を実施 2月から親子健康手帳交付のWeb予約を開始 - 市内の幼稚園・保育園にて生と性のカリキュラム（幼年期）を実施 - すくすく広場3月末に終了 - 助産師による新生児・乳児訪問と統合し、保健連絡員・保健連絡員OBによる赤ちゃん訪問3月末終了 「発達障がいをもつ子どもとその親への	5種混合ワクチン定期接種化（R6.4.1～） - 新型コロナウイルスワクチンがB類の定期接種として開始（R6.10.1～） - 小児用肺炎球菌ワクチンの変更（R6.4.1よりPCV15の使用開始、R6.10.1よりPCV20の使用開始、PCV13が定期予防接種から外れる - 小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助を年度末で終了 - 大人の男性の風しん対策事業をR7.2.28で終了	- 新型コロナウイルスワクチン接種推進室が廃止され、統合 3名増員 - 予防検診係長2名配置 - 子育て世代包括支援センター、保健センターに保健師を各2名増員 - 子育て世代包括支援センターに助産師1名増員 - 事務所狭隘解消のため、栄養実習室を事務所へ改修	149,206

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
6年	・第2次小牧市自殺対策計画を策定 ・歯と口腔の健康づくり専門部会設立 ・健康日本21(第三次)にあらずに「女性の健康」が追加されたことにあわせ、女性の健康週間に、30～40代女性を対象とした骨密度測定を実施	・支援のあり方」部会を終了 ・育児専門電話「こまねっと」終了 ・成長記録の様式検討 ・にこにこむし歯予防相談から予防教室へ			
7年	・糖尿病対策専門部会の設立 ・女性の健康づくり支援事業を拡充。若年層を対象とした骨密度測定の実施回数を増加 ・10月のピンクリボン月間にあわせ、市内企業と連携しプレストアウェアネス等について周知啓発 ・小牧市保健連絡員設置要綱を改正	・成長記録新様式変更 ・楽育相談3月末に終了 ・おひさまサロン3月末に終了 ・不妊治療等助成事業(生殖補助医療)開始 ・5歳児健康診査開始 ・中学生ピロリ菌検査事業の回収方法を変更(保健センターや各市民センター等にて回収) ・児童館巡回育児相談を3月末に終了 ・すくすく子育て応援事業の経済的支援が、国の出産・子育て応援交付金に代わり妊婦のための支援給付で対応 ・小学校フッ化物洗口実施校が3校に拡大(小牧原小学校、三ツ淵小学校、米野小学校)	・带状疱疹ワクチン定期接種化 経過措置(R7～11年度)当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者※100歳以上の方については、R7年度に限り全員対象 ・H9年度～H20年度生まれの女性で、R4.4.1～R7.3.31までの間にHPVワクチンを1回以上受けた方は、R8.3.31までの間、残りの接種を公費で受けることができる特例的な経過措置を実施 ・MRワクチンの出荷停止に伴う供給不足で接種できない状況があり、R7～8年度に経過措置実施 ・4種混合ワクチン販売中止	・保健センターに保健師を3名増員、臨床心理士を1名配置 ・休日急病診療所の外科診療を縮小	148,674

※人口は各年度4月1日現在の人数